

精神医療保健福祉に求められる地域リハのあり方

- 310-314 **1** これからの精神科医療機関のあり方
●野口正行
- 316-320 **2** 精神科におけるこれからの訪問看護のあり方
●原子英樹
- 321-325 **3** 地域生活を支える相談支援事業のあり方
●吉野 智
- 327-333 **4** リワーク支援のあり方ー地域移行の流れと実践を通して考える方向性
●牧 宏一
- 334-339 **5** 官民協働で精神障害者ピアサポート活動を育む
●中野千世
- 340-345 **6** 多様な生き方を支えるための地域生活支援・地域リハのあり方
●遠藤真史



地域、自宅での支援は「人が生きること」をダイレクトに支援者に問いかけてくる。多様なニーズがあるため、一人の考えでは突破できない課題も多い。そのために地域リハではかかわる支援者が、お互いの「相違と強み」に基づきながら、さまざまな考えやアイデアを「発信と受信し合う」ことが求められている。ユーザーの希望する生活のためにも、本特集によって、支援者自身の既存の枠組みの中から一歩踏み出したアイデアや考えを取り込み、支援の幅を広げる機会になればと思う。

企画担当 ● 遠藤真史 (NPO 法人那須フロンティア地域生活支援センターゆずり葉, 作業療法士)